

S6 パネルディスカッション

今すぐ解決したい現場の悩み

パネリスト:(五十音順)

大西 建児(株式会社 豆蔵)

鈴木 郁子(シャープ株式会社)

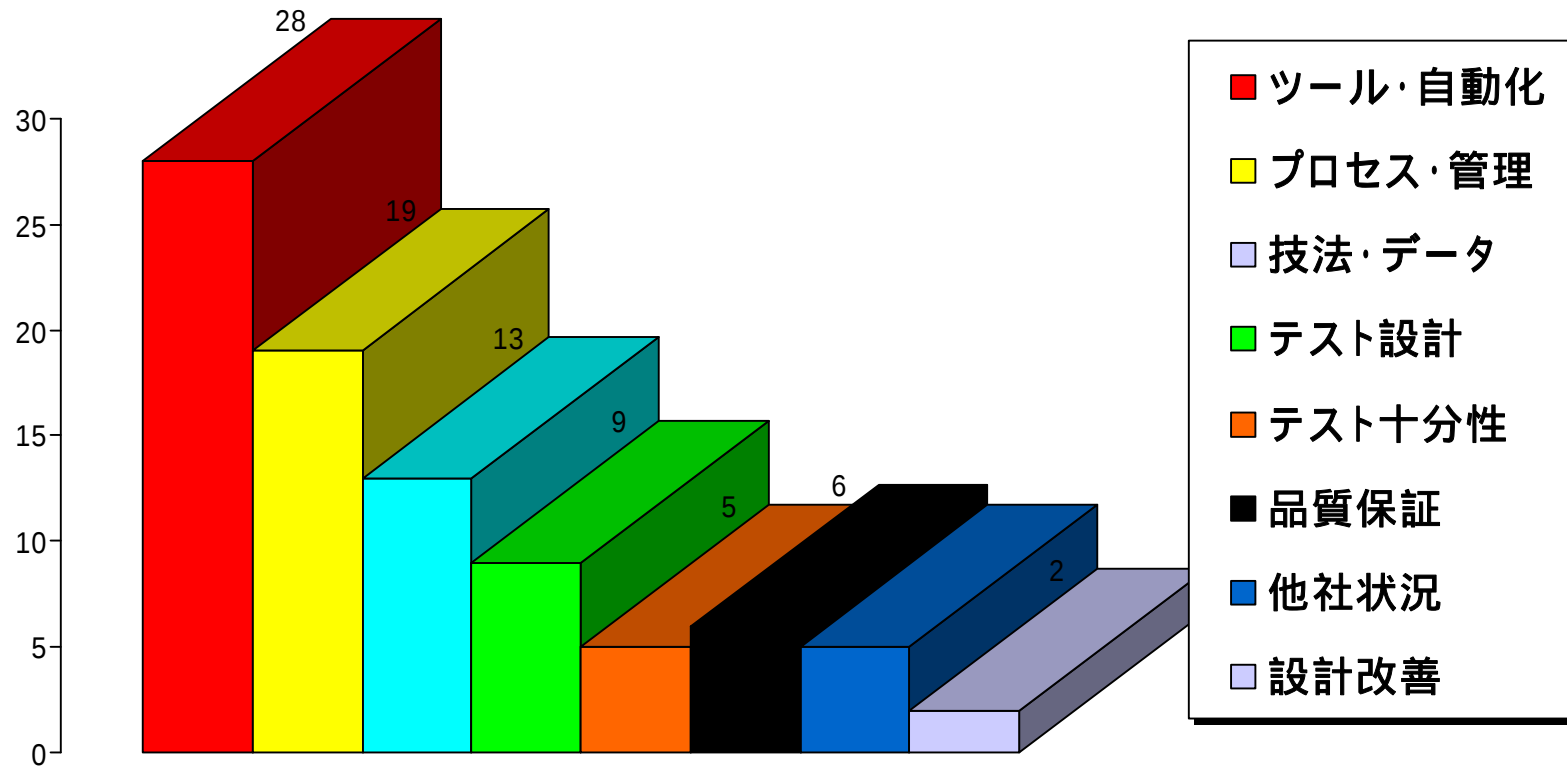
にし 康晴(電気通信大学)

水野 修(大阪大学)

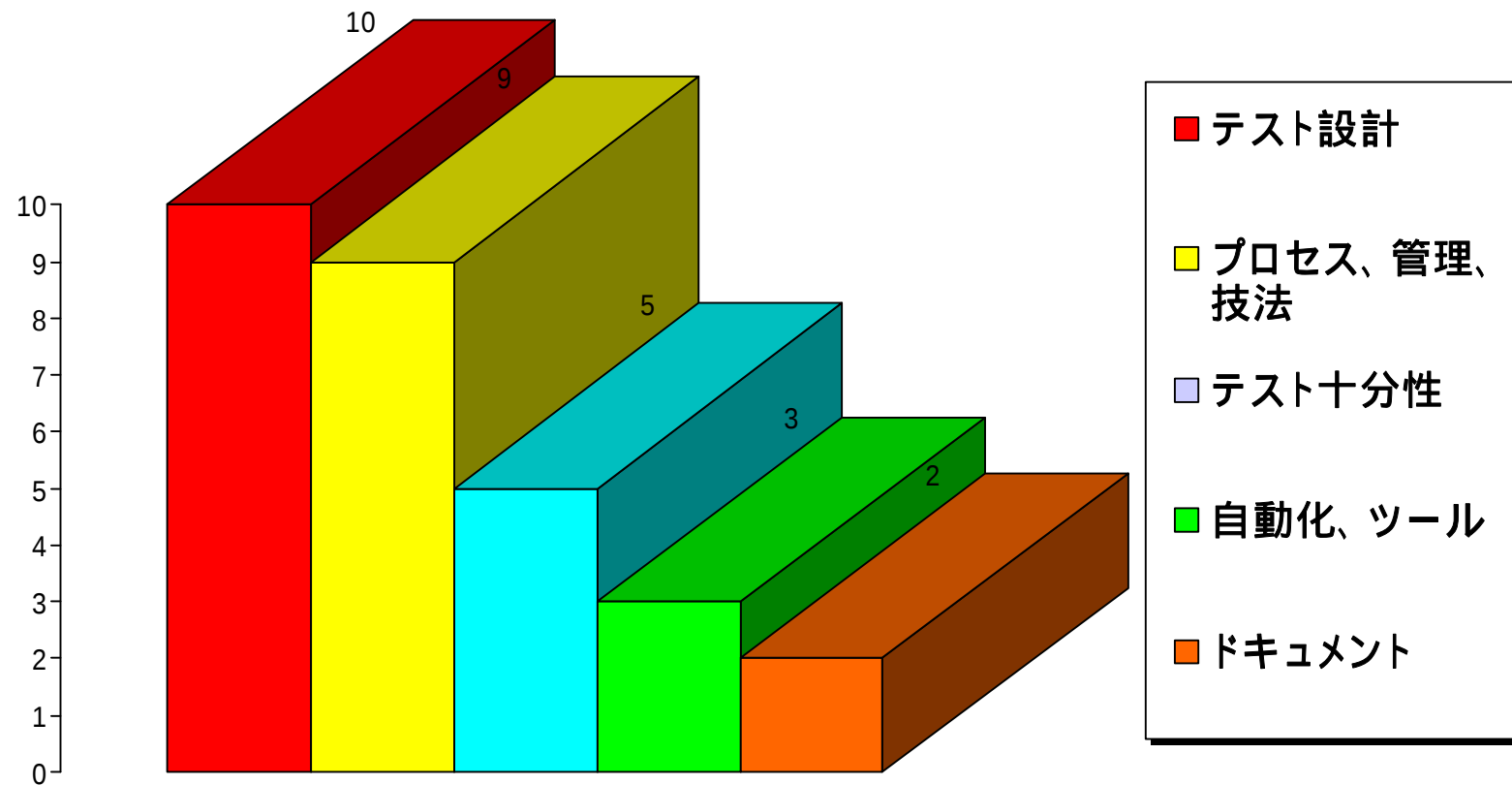
テスト現場のニーズ

@IT(アイティメディア様)開催

『ソフトウェアテスト・ミーティング』イベントの参加者アンケートより



申し込み時のアンケート結果





1. テスト設計の悩み

効果的なテスト項目の抽出は
どうすれば良いでしょうか？

1. 効果的なテスト項目の抽出は？

	有効	あまり効果がない
鈴木	どんな手法であっても、目的が明確であれば、なんらかの効果はある	どんな手法であっても、目的が不明確であれば、なんら効果はない
大西	過去の重要不具合の回帰テストへのフィードバック 高い実行カバレッジの確保	「やみくもテスト」
にし	同値クラス分析とカバレッジ分析 バグ分析からのテストおよび開発の改善	ランダムテスト アドホックテスト
水野	前工程での不具合検出	無計画なテスト



2. バグ収束の見極めの悩み

テストはどこまでやれば
良いのでしょうか？

2. テストはどこまでやればいいのか？

	有効	あまり効果がない
鈴木	テストには終わりはないが、終わるなら経営判断 何ができていないのかを考えること	実行したテストの情報だけで判断すること
大西	品質の確保を客観的に確信できるまで バグの収束はテスト終了の判断材料 当初の期待通り「儲かるかどうか」	バグが頻発時のテスト続行 単純に不具合の件数を積み上げる 新規開発でのSRGMの適用
にし	要求品質をきちんと定義して、リスクベースドテストアプローチ 単独で考慮するのではなく、多くの要因を総合的に考える	何も考えずに信頼度成長曲線を使うこと
水野	時間の制約に合わせた優先度づけ	効果の上がないテストを延々と続ける ランダムテスト SRGM